

認定!

趣味乃
しゅみのたつじん
達人



水野 英雄 さん

(津島市老人クラブ連合会)

不思議さと驚きに 満ちたマジックに夢中

「若い頃、バンドでギターを弾いていました。その時のバンドマスターがマジック好きで、いろいろ教えてくれたんです。それが最初のきっかけですね」と言う、水野さん。とはいえ多忙な仕事の日々に、マジックは見るだけのものになっ

ていました。マジックに本腰を入れたのは、定年退職後の平成5年から。同じくマジック友人に誘われ、一宮市の文化教室に通い始めたんですよ。そこに3年間通い、マジックの基礎を学びました。



マジックにはタネが重要ですが、それ以上に、タネから目をそらせる、なめらかな道具の使いこなしがポイントです。それには練習あるのみ。地道な努力の結果、めきめき上達した水野さんに、イベント



毎年恒例の津島市老連演芸大会。タンバリンの中からテープが出てくると大きな歓声が上がりました

出演の話しが舞い込んでくるようになりました。

「友人と2人で、旧西枇杷島町の『高齢者のつどい』に毎月呼ばれ、1年間通いましたね」

今ではさまざまなおイベントや催しに呼ばれては、自慢のマジックを披露し

ています。

「好きなマジックは、ひもやハンカチを使ったもの、そしてトランプを使うたカードマジック。自分でもいろいろな研究



や工夫して、アレンジを考えています」マジックの魅力とは「不思議だなと、見ている人にも思われること。ビックリしてもらいたいこと。そして、最後に拍手をいただくと本当にうれしいですね」と笑顔を見せる水野さん。

毎年9月には津島市老連の演芸大会が開催され、その常連出演者でもあります。「今年は、昔とった杵柄でギターの演奏も披露しますよ」